

5-② 危険箇所を考えよう

■対象：幼児～中学生の親

■時間：60分程度

■手法：ランキング

学習のねらい 身近な危険箇所に目を向け、子どもと一緒に危険について考えることができるように、親の危険意識を高める。

準備するもの 筆記用具 掲示用の一覧表 ひも ワークシート【P.85】
アドバイスタイム用配付資料
参考資料「まち歩きチェックポイント」【P.86】

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>今日は、地域の中にある身近な危険について考えていきたいと思います。 その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
7分	<p>【アイスブレイク】</p> <p>①知恵の輪ループ〈P.99〉</p> <p>②自己紹介</p>	<p>・②では、経験をもとに危険を感じた場面について簡単に紹介し合う。</p>	ひも
35分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>①ワークシートの説明をする ②ワーク1に個人でランク付けをする ③理由を付けてグループ内で発表する ④グループのランクを考える ⑤グループの意見を発表し、感想を述べ合う ⑥まとめ</p>	<p>・ワークシートの項目の詳細は各自の判断にゆだね、あまり細かい説明はしない方がよい。</p> <p>・合意形成を大切にしながらも、意見がまとまらなければその様子を発表してもらおう。</p>	<p>筆記用具 ワークシート(P.85)</p> <p>掲示用一覧表</p>
13分	<p>【ふり返りと分かち合い】</p> <p>①地域の中で危険だと思う場所とその対処についてワーク2に書く ②グループで話し合う</p>	<p>・怪我の危険と犯罪の危険の両方から考えるとよい。 ・全体に広げてよい。</p>	
5分	<p>【アドバイスタイム】</p> <p>いかがでしたか？ 子どもたちの周りには危険がたくさんあります。その危険を意識しているか、していないかが、危険回避の大切なポイントです。 学校や自治体では安全マップを作って危険箇所をチェックしているところがありますが、その際のポイントとして挙げられる場所は次のようなところですよ。 【「まち歩きチェックポイント」配付】 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.114「子どもの安全のために親が工夫しよう」 P.115「危険を知ることが、身を守ることにつながる」から状況に応じて読んで読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		配付資料

5-② 危険箇所を考えよう

①ワークシートの説明をする (1分)



それでは、地域の危険箇所について考えていきたいと思います。
ワークシートをご覧ください。

※対象や地域の様子に合わせて、危険箇所の内容を変更するとよい。
例えば、交通量の多い道路、海岸など。

②ワーク1に個人でランク付けをする (5分)

まず個人で考えてランクを付けてみましょう。時間は4分です。



③理由を付けてグループ内で発表する (5分)



グループの中で順番に1人ずつ、自分が付けたランクについて発表してください。その際、なぜそのランクにしたのか理由を付けて話してください。他の人は、自分が付けたランクの横に、グループの人の名前と発表したランクを書きこみながら、話を聞いてください。

④グループのランクを考える (15分)

※掲示用の一覧表を前に貼り出す。

みなさんの発表が終わったところで、今度は相談してグループのランクを決めてください。その際、グループの全員が納得するランクにすることが条件です。

多数決にしたり、安易に人の意見に流されたりしないように、みなさんでよく考えてください。どうしても決まらなければ、そのままでも結構です。

あとで、グループの決定を発表してもらいますので、発表する方を決めておいてください。



⑤グループの意見を発表し、感想を述べ合う (8分)



各グループ1分で要点や迷った点などを簡単に発表してください。
(発表が終わったら)

では、グループの中で今回の作業をして思ったことや他のグループの意見を聞いて感じたことなどを話し合ってみましょう。

⑥まとめ (1分)

いかがでしたか

(例) ・〇〇グループでは、地域の中に意外と死角があるのではという点が話題になっていましたね。

具体的にみなさんの地域には、どこにどんな危険がありそうですか？今日の話し合いを踏まえて、ワーク2に書いてみましょう。



ワーク1

私たちの住んでいる地域には、子どもたちにとって危険な場所がいくつかあります。

その中には、関係機関などに働きかけて直ちに対応しなければならない場所もあれば、子ども自身が注意することで危険を回避できる場所もあります。

①下記の場所の危険に対して、どのような対処をすればよいと思いますか？

下の目安を参考にして、それぞれの項目にA～Dのランクを付けましょう。

②メンバーのランクを記入したら、グループとしてのランクを考えましょう。



地域の危険箇所	あなた	グループのメンバー					グループ
①信号機のない横断歩道							
②人家や街灯の少ない通学路							
③川の土手や堤防							
④空き家や廃屋							
⑤ため池や用水路							
⑥歩道のない細い道							
⑦放置された粗大ゴミのある所							
⑧資材や土砂の置き場							
⑨							
⑩							

ランクの目安	Aランク	できるだけ早く関係機関に働きかけて、何らかの対策をとって改善を図る。
	Bランク	危険ではあるがすぐには対策がとりにくいため、とりあえずPTAや地域のボランティアの力でできる対策を考える。
	Cランク	危険であることの認識は必要だが、子どもが理解すれば回避できる。
	Dランク	判断できない。またはとくに危険を感じない。

ワーク2

身近なところで危険だと思われる場所はありませんか？
また、その危険に対してはどのように対処すればよいと思いますか。



まち歩きチェックポイント

1. 人の視線が届きにくい場所

- 木が多くて暗い公園や神社
- 死角の多い駐車場
- 空き室の多いビル
- 公園内のトイレまたその裏
- 人が住んでいない荒れた家
- ビルの暗い入り口や脇の陰
- 線路脇や地下道
- 夜に明かりが少ない道
- 縦列駐車が多い道
- 道路の両側に高く長い壁が続いている道
- 人通りが少ない道

2. ルール違反の場所も要注意

- 落書きが放置された壁
- ゴミが散乱している場所
- 放置自転車が多い道
- 違法駐車が多い道
- 夜、酔っ払いが多い道
- 暴力事件があったビル
- ひったくり看板のある場所
- たばこの吸い殻が落ちている場所

3. 交通事故の危険性が高い場所

- 歩道がない細い道
(車に引っ張り込まれそうになる危険もあるので誘拐の危険性もある)
- 信号がない交差点
- 縦列駐車が多い道

4. 意外に思う危険な場所

- 見えにくい駐輪場
(駐輪場の中には道路や住宅から見えにくい位置に設置されているものがある。また、汚くしていると、ルール違反をする人を呼び込んでしまう場所になることもある)
- 不特定多数の人が集まる場所
(人目が多いからと安心してしまうところが盲点。子どもに話しかけても不審に思う人が少ないので、事件等に巻き込まれる危険性がある)
- 交通量は多いが人通りが少ない道
(人通りが少ないと車で連れ去られる危険性がある)

【参考】「子どもを守る地域安全マップを作ろう」
特定非営利活動法人 子どもの危険回避研究所